

足跡

そくせき

これまでの広報で取り上げられた記事と当時の写真から、釜石の歩みを振り返ります。

200万人が来場 三陸・海の博覧会



平成4年8月1日号



釜石を主会場とする三陸・海の博覧会が「光る海、輝く未来」をテーマに、平成4年7月4日～9月15日の74日間にわたりて行われました。当初の来場者目標は70万人でしたが、実際の来場者数は約201万人に上るなど、大きな成果を残しました。

「県下第二の都市」と「広報かまいし」の誕生



昭和30年4月1日に、釜石市、甲子村、鵜住居村、栗橋村、唐丹村が合併し、現在の釜石市となりました。当時の人口は8万人を超え、盛岡に次いで県下第二の都市でした。この年に『広報かまいし』も発行が始まり、市と市民とをつなぐ情報誌が誕生しました。



昭和31年1月20日号

橋野鉄鉱山世界遺産登録



橋野鉄鉱山（橋野高炉跡及び関連遺跡）を構成資産に含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産として登録されました。橋野鉄鉱山は現存する日本最古の洋式高炉跡で、幕末から明治にかけて日本の産業化の先駆けとなりました。



平成27年7月15日号

国体夏季大会の開会式の開催



昭和45年9月5日号

新日鐵釜石ラグビー部 黄金時代



昭和60年2月1日号

新日本製鐵釜石ラグビー部が、昭和53年から全国社会人大会、日本選手権を7連覇という偉業を達成し、その強さから「北の鉄人」と呼ばされました。こうして日本ラグビー史に一時代を築き上げたことで、釜石は「ラグビーのまち」として全国に広く印象付けました。

「市民が主役」の広報紙に

まちの主役は市民の皆さん一人一人です。広報かまいしでは、皆さんの頑張る姿や子どもたちの笑顔からまちの「現在」をお届けします。そこから少しでも「釜石ってやっぱりいいな」「またこのまちで頑張ろう」と思ってもらえたう、希望が連鎖するまちになると思います。希望溢れる「明日」の釜石のために、これからも皆さんとともに「市民が主役」の広報紙を作っていくので、次号からもよろしくお願いします。



令和元年10月15日号

ラグビーワールドカップ2019の開催地として「KAMAISHI」の名が世界に轟くとともに、釜石のラグビーの歴史に新たな1ページが刻まれました。